



北東中だより

甲府市立北東中学校
令和4年12月26日
文責 竜澤 規之
NO. 10 (12月号)

2学期終業式 校長あいさつ

この夏は、大変暑い夏でした。10月に入ると一転して厳しい寒さを感じる日もあり、季節の移り変わりを肌で実感できる、そんな2学期だったのではないのでしょうか。

9月は二葉祭がありました。皆さんの健康面を考慮して、1日開催のメニューのまま2日間の開催とし、結果的に2日目の体育部門では保護者の皆様にも、皆さんの躍動する姿をお見せすることができ、大変嬉しく思いました。また、11月の合唱祭も全校生徒参加の合唱祭になりましたし、学年ごとにはなりましたが保護者にも参観していただくこともできました。コロナ禍での自粛が3年近くに及ぶ中でも、何とか行事を実施できるようになったこと、保護者の皆様にも生徒たちの学ぶ姿を見てもらえたことが、この2学期の何よりの成果だったと思います。

日常生活の中にもたくさん成長につながるものがありました。部活動には普段、教室では学ぶことできない貴重な経験ができるという利点があります。3年生が引退し、新チームとして2年生が中心となって運営し、中には選手として初めて新人戦に参加した人もたくさんいたのではないのでしょうか。私が「試合はどうだった？」と訊くと「緊張した!」「足が震えた!」なんていう人もいて、貴重な経験ができたんだな、と嬉しく思いました。

その他にも、投票によるポロシャツの決定がありました。生徒玄関で朝のあいさつをする私に、こちらを向いて、元気よくあいさつをしてくれる人も増えてきました。最初は、うつむき、目も合わせてくれなかった人が顔を上げ、笑顔であいさつをしてくれたときは、なんだか嬉しくて、その日1日、温かい気持ちで過ごすことができました。これからも顔を見合わせて気持ちよく「あいさつのできる北東中生」でいてほしいと思います。

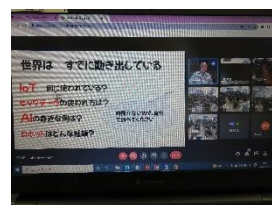
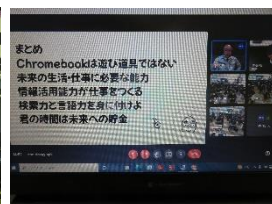
さて、3年生はいよいよ受験シーズンです。1月の私立高校の推薦入試を皮切りに、突破しなければならない入学試験が待っています。そのための学習や面接練習などに取り組んでいるところだと思いますが、冬休みに入ると受験ストレスを忘れさせてくれる友だちとの楽しい会話がなくなり、不安と孤独を感じるかも知れません。

皆さんは、受験ドラマ「ドラゴン桜」という番組を観たことがあるのでしょうか。その中で教師役の阿部寛さんが「自分の人生は自分で作る。人生はどうなるかじゃなく、どうするかだ!」と言っていました。「何とかなる」のではなく、「何とかする」という気概が、「やり抜くんだ」という強い意志が受験勉強には必要なんだと教えてくれています。おそらく人生で初めて、保護者の庇護のない、厳しい社会の洗礼を受ける大きな試練に、全力で立ち向かっていってほしいと思います。

最後に、北東中生に心がけてほしい3つの言葉。「命、信頼、向上心」を心に刻んで来年も目標を持って取り組んでほしい、校長からの願いです。このことを確認して校長のあいさつとします。

「君は今日からChromebookをどう使うか？」

12月12日(月)6校時に、甲府市教育委員会の鈴木昇先生から、遠隔授業を配信してもらいました。Chromebookは未来社会で働く道具として不可欠な情報活用能力を身につける道具であること、未来に生きる力を身につけるためにChromebookが配付されていることなどのお話を聞きました。日本は世界の中で最もコンピュータを利用しているのに、そのコンピュータを勉強に利用している人が世界中で最も少ない国の一つだというお話に生徒の皆さんはとても驚いていました。今後、北東中では有効な活用方法についても勉強していきたいと思ひます。



<生徒会役員選挙(12/7)>

「なんて立派な演説なんだろう」と感想を持たずにはられませんでした。立候補者たちの凛々しい姿、考え抜かれた演説。北東中を背負って立つ気概のような、思わず「北東中を頼むぞ!」と思わせてくれる演説会でした。加えて、応援演説も素晴らしかった。演説を聴く態度も良かった。短かったものの、これまでの選挙活動が実を結んだ、すべてが素晴らしい立ち会い演説会でした。



うれしいお電話 (学区内にお住まいの方から)

12月14日放課後に一通のお電話がありました。お礼のお電話です。その方は県外から数年前に引っ越してきて古い家をリフォームしてお住まいになっている方です。リフォームはしたものの古い塀はそのままだとあって、その日は午後からの強風で古い塀が崩れ、道路に散乱してしまいました(家人は留守)。なんと、その時通りかかった本校の3年生男子5人が、下校途中に、道に散乱していた崩れた塀を片付けてくれたというのです(5人は片付けたことの書き置きだけを残してそれぞれ下校)。

その方からのお礼のお電話を翌日知った私は、本当にうれしく、昼休みにその5人に校長室に来てもらい、北東中生として素晴らしい行いをしてくれたことへの賞賛と感謝を伝えさせてもらいました。その後、職員室の先生方からも大きな拍手が送られていました。なんてカッコいいヒーローたちでしょう!寒くなった冬に、心の底からホッと温まる思いをしたひとときでした。

私の尊敬する大先輩の先生に、東中の校長先生で退職された吉野喜久男先生という方がいらっしゃいます。先生はVF甲府の前身「甲府クラブ」で選手として活躍された方で、先生の座右の銘は「克己心(こっきしん)」でした。克己心とは、「自分に打ち克つ心」をいいます。先生は、現職時代に生徒に克己心の大切さを指導されていて、おたより名も「克己」だったと記憶しています。

西中時代に指導された生徒の一人に萩原智子という生徒がいました。そうです。「はぎとも」という愛称で呼ばれた水泳のオリンピック選手です。彼女もまた、講演会の中で自分の座右の銘を「克己心」とされているという話をお聞きしました。他にも、来年度のVF甲府の監督に内定している篠田善之さんも西中時代の吉野先生の教え子で、同じく「克己」を座右の銘にされているとのこと。

自分の甘さに打ち克つ心。この複雑化、多様化する現代社会においても、自分を見失わず強く生き抜こうとする心の持ちようを教えてください、忘れてはならない言葉だと思います。

人生はしょせん克己の一語に尽きる 井上靖(1907~1991)日本の作家

人生とは何か、その答えは出ていません。自分で経験し、自分でつまづき、自分で気づくほかないのでしょうか。著名な作家井上靖はそのことを『わが一期一会』の中の「人生について」という章で次のように書いています。小学校高学年の時、先生と共同浴場に行った帰りに先生に言われた言葉です。「克己という言葉を知っているか。克己とは自分に克つことだ。非常に難しいが、人間が他の動物と違うところは、誘惑や欲望と闘って自分に打ち克つことができるという点だ。勉強するも克己、仕事をするのも克己、みな克己だ(井上靖『わが一期一会』朝日新聞社より)。」

「名言1分話」(学陽書房)1997年初版 著者 柴山一郎

1月の予定

5日	木	第2回校長会テスト
6日	金	3学期始業式
10日	火	給食開始
12日	木	相川小6年生学校訪問
13日	金	専門委員会・代議員会
18日	水	3年進路懇談
19日	木	3年進路懇談
20日	金	3年進路懇談 公立前期出願日
26日	木	甲教協
27日	金	第3回PTA学校委員会
30日	月	新入生保護者説明会

年越しそばの由来は?

江戸時代には、月末に食べる晦日そばなど、行事や節目ごとにそばを食べていたといわれています。このように年越しそばは、さまざまな行事から現在も続く風習となったと考えられており、由来ははっきりとしていません。

年越しそばの由来には、複数の説が伝わっていますが、どの説も縁起や験を担ぐ内容です。そばは細く長く伸びることから、1年の最後の日に長寿を願って食べられたほか、そばの切れやすさが「厄や災いを切る」との意味とつながり、厄落としとして食べられていました。